

2007年版

## 環境報告書



2008年 6月

日東精工株式会社

「私達は、環境にやさしい企業を築くため、  
みんなで努力して行動します」

目次

事業活動	2
ご挨拶	3
環境方針	4
環境目的・目標	5
2007年実施報告	6
環境マネジメント	7
環境品質保証	10
環境会計	11
温暖化への取組み	13
省資源・リサイクル推進	14
水質汚濁物質	15
化学物質管理	16
会社概要	17



表紙：菅谷山東光院  
(綾部市上延町)

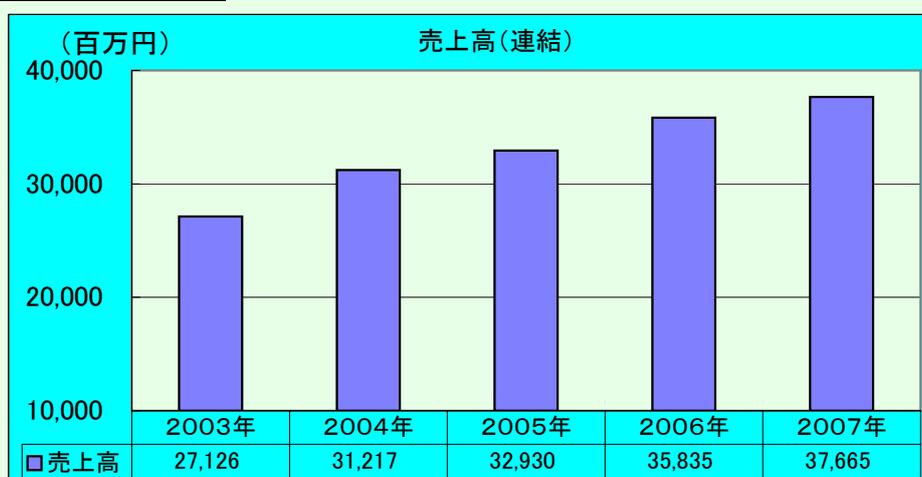
**本報告書の対象範囲**

1. 報告書の対象範囲は、本社工場、八田工場です。
2. 報告期間は、2007年1月1日～2007年12月31日です。
3. 報告対象は、環境分野です。



# 事業活動

## 売上高推移（連結）



## 主な事業内容

ファスナー事業部	産機事業部	制御システム事業部
<b>工業用ファスナー</b> ・ねじ ・ねじ部品 ・リベット ・特殊形状部品 ・ドライバビット	<b>自動組立機械</b> ・ねじ締め機 ・リベットかしめ機 ・部品供給機 ・組立ロボット ・コンベア ・省力化機器・自動組立装置	<b>計測制御機器</b> ・流量計 ・データロガー ・排水処理装置 ・計装システム ・地盤調査用自動貫入試験機

ファスナー（ねじ）製品

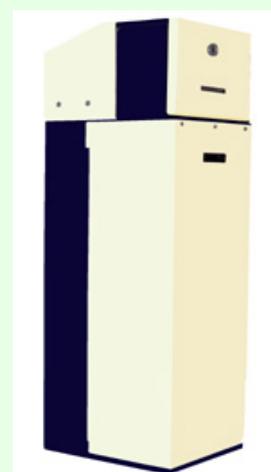
卓上型極小ねじ締めロボットシステム

内圧防爆式プリンター



マルチタイト

オートクロス



## ごあいさつ

昨今の原油高にともなう原材料の高沸により、企業経営は非常に厳しい状況になってきております。今の豊かな社会は地球資源の上に成り立っており、この資源に変動が生じると社会が揺れ動くこととなります。現在の原油高は資源の枯渇から生じているわけではありませんが、この先の地球環境に警告をならしているのかもしれない。

京都議定書の日本の目標である温暖化物質6%削減の達成年度が本年から2012年の間になっています。地球温暖化防止に向け二酸化炭素の削減に取り組む達成していかなくてはなりません。石油依存社会から低炭素社会へ向けて進んでいかなくてはなりません、取り組みはこれからであり、代替エネルギーや自然エネルギーの開発や新技術が必要になってきます。

会社の二酸化炭素の削減計画は、二酸化炭素を原単位で1%ずつ削減する目標で、計画を進めています。製造工場においてはまだまだムダなエネルギーの消費があります。このムダなエネルギー消費を削減し、エネルギーの有効活用を図ることが、生産エネルギー効率を高めていくことになり、結果として省エネルギーとなります。そして二酸化炭素排出量の削減になります。

生産効率を高めることは、原材料の省資源化とムダなエネルギー消費を削減することになります。結果として「環境にやさしいモノ作りを行う」こととなります。企業の責任として、省資源、省エネルギーで製造を行い、優れた品質を保ちながら製品の提供に努めてまいります。

なお、2008年に産機事業部、制御システム事業部の各工場において、ISO14001の認証取得を行いました。これを機に、今まで以上に環境に配慮したモノ作りに取り組んでまいります。

2007年の環境報告を致します。

取り組みや活動につきまして、ご意見をいただきましたら幸いです。

2008.06.20



代表取締役社長  
塩田 展康

# 環境方針

## 環境基本方針

企業活動を展開する上において、環境保全を最重点とし、地域環境と地球環境を守り、社会と調和して豊かな社会の実現に貢献することを目的とします。

## 基本理念

地域社会と共存共栄を図り、環境に対しては先手を打ち、環境にやさしい、環境に負荷を与えない取組みを実践して、地域社会の皆さんに信頼していただける会社を築いていきます。

## 行動指針

1. 法的要求事項及び関係するその他の要求事項を遵守し、汚染予防に努めます。
2. 省エネルギー、省資源に努めます。
3. 廃棄物の減量化とリサイクルの推進に努めます。
4. 地球環境に影響を与える物質の削減に努めます。
5. 商品・サービスの提供にあたっては、環境影響に十分配慮します。
6. 環境意識の向上を図り、全員で取組みます。
7. 地域との共栄を図り、地域への貢献と信頼を得るよう努めます。

## 社長コミットメント

当社は事業活動として、工業用ファスナー・自動組立機械・計測制御機器等の製造販売を行い、社会に貢献していきます。その事業活動を行うにあたり、環境保全への取組みを企業経営の最優先事項の一つと位置づけ

「私達は、環境にやさしい企業を築くため、  
みんなで努力して行動します」

をスローガンに、経営層をはじめ全従業員が地域環境と地球環境を念頭におき、地球温暖化防止、環境負荷と環境リスクの低減に努めます。

1. 事業活動、製品について環境影響評価に基づき、環境管理活動を技術的・経済的に可能な範囲で全員で取組み、環境目的および環境目標を設定、推進し、汚染の予防と継続的な改善・向上に努めます。
2. 環境保全に関する法令と、当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
3. 地域との共生を図り地域への貢献と信頼を得るよう努力します。
4. 環境方針は掲示し、全従業員と組織で働く全ての人々に、環境カードを配布し周知徹底を図ります。

この環境方針は、社内外に公表します。

2008年 1月 1日

代表取締役社長 塩田 展康



# 環境目的・目標



## 3年間の中期計画

環境目的を2005年に制定し、2006年から2008年の中期計画で、二酸化炭素を4%削減する活動を行っています。

その目標として、電力量の60万kwh、燃料を3kl削減する計画を推進しています。また廃棄物量の削減とリサイクル率を80%以上にする目標を掲げています。

2007年はその2年目として環境負荷削減活動を行ってきました。

2008年にはISO14001の認証工場を城山工場、制御システム工場に拡大します。

## 2008年環境目標

1. 産機事業部、制御システム事業部のISO14001の認証を取得する
  - ・2008年に、新たに2工場の認証を取得する
2. 二酸化炭素排出量の削減 目標 2008年に2005年比4%削減する
  - ・二酸化炭素排出量内訳
    - 二酸化炭素を272t削減する
    - ①電力消費量を60万Kwh削減する
    - ②燃料消費量を3kl削減する
    - ③廃棄物のリサイクル率80%以上にする
3. 環境リスクの低減
  - ・環境リスク要因の削除、改善を図る
  - ・有害化学物質を削減する
    - ①塩化メチレン・フロン141bは全廃する
    - ②環境負荷物質を削減する
    - ③地下汚染防止対策を推進する
4. 日常活動の管理
  - ・環境品質保証の確立
    - ①ユーザ要求とRoHS規制へ対応する
    - ②グリーン購入を行い有害物質の排除を行う
  - ・環境にやさしい行動の推進
    - ①環境負荷を与えない生産活動を行う
    - ②環境基準を遵守する
    - ③地域環境に配慮した生産活動を行う

# 2007年実施報告

実施計画	実施内容
環境マネジメント	ISO14001の認証範囲を拡大すべく、取組んでまいりました。城山工場、制御システム工場の認証を2008年に取得します。
法規制等の遵守	法規制に定められています、届出、測定、点検などは全て実施しました。また排出規制値の遵守もできています。
環境負荷の削減	エネルギーの有効利用、ムダなエネルギーの排除を進めてきました結果、二酸化炭素排出量で前年比398t-CO2の削減となりました。 六価クロムを使用したラインは全て廃止しました。 廃棄物量は82tの削減となりました。
環境リスクの低減	環境リスクとしましては、洗浄に使用しています、塩化メチレン、フロン141bの全廃ができませんでした。早期に代替化を進めてまいります。 また排水処理において、社内基準を超える濃度が時々発生しています。その原因の除去と安定した処理を進めてまいります。
環境品質保証	RoHS対応として、六価クロムの使用を全廃しました。また工程中に鉛やカドミウム、水銀を含有する、材料、薬品などは使用しない管理体制を確立しています。 2008年からEU指令で規制項目となりますPFOA、PFOSにも対応しています。



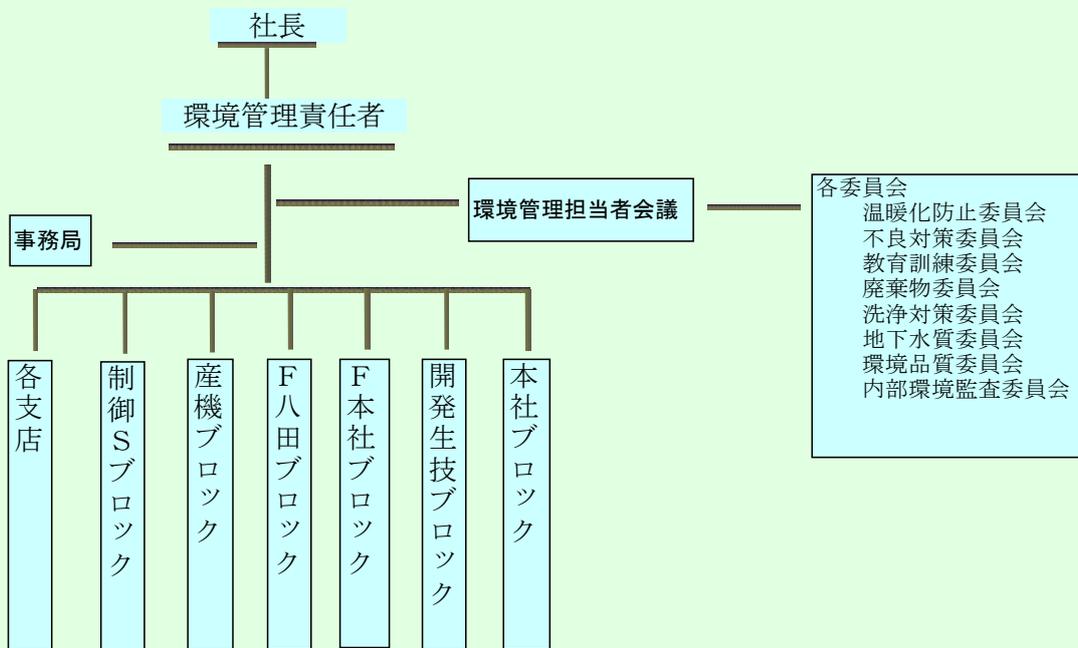
# 環境マネジメント

## ISO14001 認証拡大

2008年の定期審査において、城山工場、制御システム工場の拡大審査を受審すべく、マネジメントシステムを作りあげてきました。  
2008年の5月に審査を受けた結果、6月に認証を取得する運びとなりました。  
これにより、海外の5工場を含めて全ての生産工場でのISO14001の認証取得となりました。

## 環境管理体制

社長以下環境管理責任者のもと、各部門において、環境管理活動を展開しています。また全社の委員会として、環境管理担当者会議、専門委員会として各担当委員会を設置し、目的目標の達成にむけて活動を行っています。



## 環境教育

環境教育として、全員対象の環境管理システム教育、特定業務従事者への教育、内部監査員教育、管理監督者教育、新人教育を実施しました。

教育プログラム  
新入社員教育  
管理監督者教育  
部門教育  
特定業務教育



# 環境マネジメント

## 内部環境監査

内部環境監査を4月に行いました。システムの有効性をチェックする目的で部門のPDCAがよく回っているか。目標の達成により、効果がでているかなどを内部監査により確認を行いました。

## 内部環境監査員養成講座

認証範囲拡大に伴う部門長を対象に環境内部監査員養成講座を開催し、新たに19名が審査員として登録をしました。



## 緊急訓練

緊急事態を想定し、火災訓練、高圧ガス火災訓練、薬液漏洩訓練を実施しました。

## 環境リスク

1. 漏洩防止  
機械設備からの機械油や、使用薬品が床面に漏洩し土壤汚染を起こさないようにオイルパンの設置を行っています。
2. 調査と浄化  
塩素系有機溶剤による土壤汚染、地下水汚染状況を調査し改善が必要なところは、浄化活動を行っています。また地下汚染を監視するために、監視井戸を設置し、定期測定を行っています。
3. 有害物質である六価クロムの使用を三価クロムに変更し、六価クロムは全廃しました。
4. 環境に関する控訴、補償等の交渉はありません。

# 環境マネジメント

## 環境関連法規制の遵守

1. 法に定められた事項は全て遵守しています。  
環境保全として水質の確保、大気汚染防止、騒音防止、土壌汚染防止を継続し、省エネ対策として、電力量、燃料の削減に取り組んでまいりました。結果として環境基準値の遵守、エネルギー削減目標値の達成により法遵守を継続しています。
2. 工場排水は一部自主基準値を超えていますが、法基準値は遵守しています。
3. 廃棄物処理につきましても、最終処分まで処理が確認できるように、電子マニフェストを導入し全て適正処理をすることができました。

## 環境コミュニケーション

- 環境報告書は、会社ホームページにて公開しています。  
アドレス <http://www.nittoseiko.co.jp/>
- 地域連絡会  
地域との環境対応を進める目的で、自治会関係者の方々に出席いただき毎年開催しています。
- 緑化活動  
5月に開催される綾部市みどり公社の由良川花壇展に毎年参加しています。  
2008年は綾部市市議会議長賞を受賞しました。



# 環境品質保証

## 環境品質保証に関する方針

### 基本理念

日東精工株式会社は、地球環境の環境保全の有用性を当社の優先課題の一つとして強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境問題に配慮して行動し、社会の発展に貢献する。生産に関する部品、材料、製造工程の地球環境への影響を配慮し、環境にやさしい製品の提供を行う。

### 環境品質保証に関する方針

日東精工株式会社は「顧客に対し最大の満足を得る」をビジョンとし、機構部品の調達、販売にかかわる環境品質保証の物質を以下のように定め使用禁止、全廃を図る。

#### 1. 使用禁止物質

- ①カドミウム及びカドミウム化合物
- ②PBB（ポリブロモビフェニル）類及びPBDE（ポリブロモジフェニルエーテル）類
- ③PCB（ポリ塩化ビフェニル）類
- ④ポリ塩化ナフタレン類
- ⑤有機すず化合物（トリブチルスズ類・トリフェニルスズ類）
- ⑥石綿（アスベスト）
- ⑦アゾ化合物（分解によりアミンは発生する可能性があるもの、人体に持続的に触れることを前提として作られた製品の人体接触部分）
- ⑧ホルムアルデヒド

#### 2. 全廃物質

- ①水銀および水銀化合物
- ②PVC（ポリ塩化ビニル）及びPVC混合物
- ③PBB、PBDE以外の有機臭素化合物（臭素系難燃剤）
- ④塩素化パラフィン（塩素系難燃剤・可塑剤）
- ⑤鉛および鉛化合物
- ⑥六価クロム化合物
- ⑦塩化メチレン
- ⑧HCFC（代替フロン）類

日東精工株式会社は上記環境管理物質に該当する物質が発生した場合、使用禁止、全廃の措置をとる。尚環境品質保証の全廃の期限を「別紙 環境品質保証全廃・削減計画表」に記し徹底する。

この環境品質保証に関する方針は全社員に周知すると共にユーザー先からの要求に対して開示する

2008年 1月 1日

日東精工株式会社  
常務取締役

環境品質保証経営責任者  
高倉 正明

## 環境品質保証製品の提供

有害物を**入れない、使わない、出さない**の3ない活動により、環境品質保証製品を提供します

RoHS指令に定める鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、PBB、PBDEは含有していません

製造工程中の使用薬品、油類、容器、製造機械などに有害物による汚染がないことを確認しています

環境品質保証内部監査を年1回実施しています

原材料、購入品はエビデンスを添付し、有害物の非含有を確認しています

設計、購買担当者への環境品質保証教育を実施しました

出荷検査、有害物測定により製品の非含有を証明しています

協力会社の環境品質保証の推進を図っています



# 環境会計

集計範囲：（本社・八田工場）

対象期間：2007年 1月 1日～12月31日

単 位：千円

環 境 保 全 コ ス ト					
分	類	主な取組の内容及びその効果	投資額	費用額	
1 事業エリア内コスト	(1)-1 公害防止コスト	①大気汚染防止のためのコスト		3,745	
		②水質汚濁防止のためのコスト	水質測定機整備	28,746	
		③土壌汚染防止のためのコスト		1,535	
		④騒音防止のためのコスト		452	
		⑤振動防止のためのコスト			
		⑥悪臭防止のためのコスト			
		⑦地盤沈下防止のためのコスト			
		⑧その他の公害防止のためのコスト		600	
		小 計		0	35,078
	(1)-2 地球環境保全コスト	①地球温暖化防止及び省エネルギーコスト	コンプレッサー更新配管工事		2,210
		②オゾン層破壊防止のためのコスト	アルカリ洗浄機新設	4,232	11,098
		③その他の地球環境保全のためのコスト			
		小 計		4,232	13,308
	(1)-3 資源循環コスト	①資源の効率的利用のためのコスト	上水改善、工業用水改善		217
		②産業廃棄物のリサイクル等のコスト	脱水機改造		5,321
③一般廃棄物のリサイクル等のコスト					
④産業廃棄物の処理・処分のためのコスト		廃棄物処分費		15,977	
⑤一般廃棄物の処理・処分のためのコスト					
⑥その他の資源循環に資するコスト					
	小 計		0	21,515	
	(1)-1～(1)-3までの合計		4,232	69,901	
2 上・下流コスト	①環境物品等の調達購入に伴う通常購入との差額コスト				
	②環境物品等を提供するための追加コスト				
	③容器包装等の低環境負荷化のための追加コスト				
	④製品商品等の回収、リサイクル、適正処理コスト	製品の無害化対策		2,500	
	⑤その他の上・下流コスト				
	小 計		0	2,500	
3 管理活動コスト	①環境マネジメントシステムの整備、運用のコスト	システム運用、定期審査料		5,734	
	②環境情報の開示及び環境広告のためのコスト				
	③環境負荷監視のためのコスト	環境測定	14,020	1,222	
	④従業員への環境教育等のためのコスト	部門教育、特定業務教育		2,200	
	⑤事業所及び事業所周辺の緑化、美化等の環境改善コスト	美化作業、周辺整備		16,353	
	小 計		14,020	25,509	
4 ト研究開発コスト	①環境保全に資する製品等の研究開発コスト				
	②製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発コスト				
	③その他、物流段階や製品等の販売段階等における環境負荷の抑制のための研究開発コスト				
	小 計				
5 ト社会活動コスト	①事業所及び事業所周辺を除く自然保護、緑化、美化、景観保持等の環境改善対策のためのコスト			933	
	②環境保全を行う団体等に対する寄付、支援のためのコスト				
	③地域住民の行う環境活動に対する支援及び地域住民に対する情報提供等の各種の社会的取組のためのコスト			106	
	小 計				
6 応環境コスト	①自然修復のためのコスト	地下水汲み上げ		1,530	
	②環境保全に関する損害賠償等のためのコスト				
	③環境の損傷に対応する引当金繰入額及び保険料				
	小 計			1,530	
合計			18,252	99,440	

# 環境会計

単位:千円

項目	内容	金額
当該期間の投資額の総額	洗浄装置、環境測定機器など	18,252
当該期間の研究開発費の総額		
(1)-3に係る有価物等の売却額	スクラップ、段ボール等	35,757
(2)に係る有価物等の売却額		

環境保全効果	環境負荷指標			比較指標
効果の内容	項目	2007年原単位	総量	2006年原単位
事業エリア内 コストに対応 する効果	二酸化炭素排出量	58.50	8,259 t-CO <sub>2</sub>	64.10
	電力購入量	12.20	1,723 万KW	13.26
	燃料購入量	5.00	709 Kg	5.70
	廃棄物排出量	1.05	1,485 t	1.27
	リサイクル率	-	71 %	72%
	水質汚濁物質	0.73	10,294 Kg	0.65

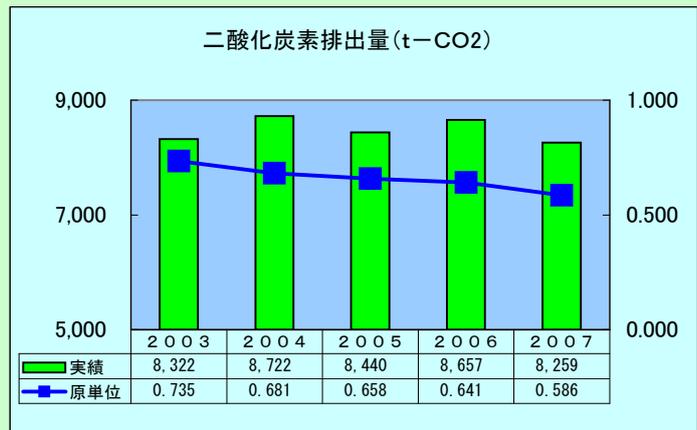
環境保全対策に伴う経済効果		—実質的效果—
効果の内容		金額
収益	リサイクルによる事業収入	35,757
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減	7,040
	リサイクル、削減に伴う廃棄物処理費の節減	764
	省資源に伴う廃棄物処理費の節減	
合計		43,561



# 温暖化防止への取組み

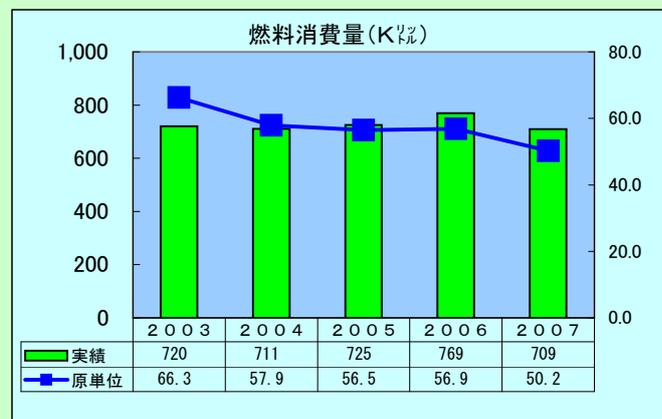
## 省エネルギー活動

地球温暖化物質の削減を目的として、2006年から3か年の中期計画で、省エネルギーの推進、ムダなエネルギー消費の削減に取り組んでいます。  
2007年はエネルギーの有効利用の推進、照明の改善や生産設備、コンプレッサーなどの効率運転の改善を進めてまいりました。結果として二酸化炭素の排出量は前年度比398t-CO<sub>2</sub>(5%)の削減となりました。  
また、原単位につきましても前年度比9%減少となりました。



### 電力量の削減

2007年も昨年に引き続き電力量の効率的な使用、改善による削減を進め、照明の改善、コンプレッサーの省エネ、生産設備の効率化を実施してまいりました。その結果電力量は昨年比67万kwh(4%)の削減となりました。



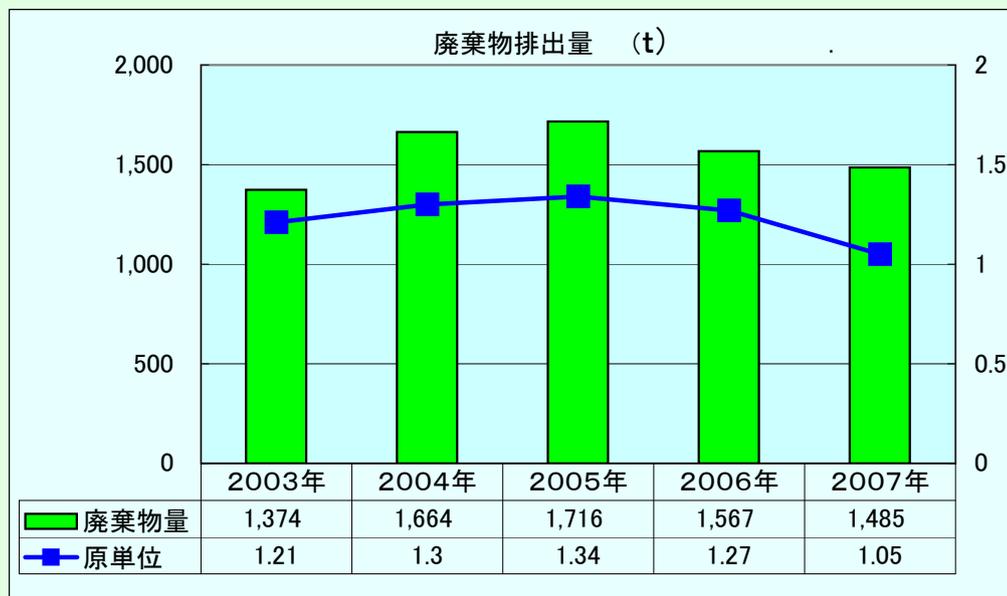
### 燃料の削減

灯油、LPG、ガソリン、軽油とも昨年よりも消費量が減少しました。原単位では対前年比12%減となり、資源の効果的利用ができました。

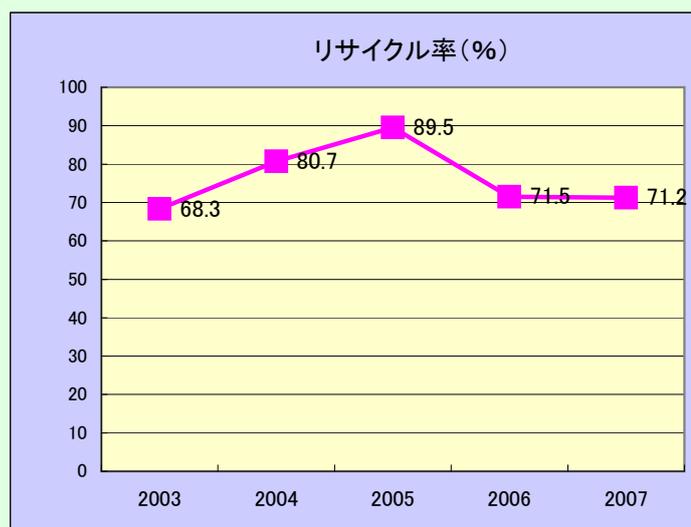


# 省資源・リサイクル推進

## 廃棄物排出量



工程から排出される廃棄物の削減に取り組んでまいりました。特にスクラップの削減に取り組んだ結果、廃棄物全体として前年比82t(5%)削減しました。



2007年は汚泥、廃アルカリの再利用を模索してまいりましたが、いずれも有効な引き取り手が無く、リサイクル率の向上は図れませんでした。

# 水質汚濁物質

## 水質汚濁物質



水質汚濁物質につきましては、工業用水の使用量増加の影響を受け、前年度比1,623Kg増加しました。  
めっき排水処理の高度処理とシステム改善に引き続き取り組んでまいります。

測定項目	規制値		測定値(mg/l)	
	府の基準	社内基準	平均値	最大値
水素イオン濃度 (PH)	5.8-8.6	6.0-8.0	6.0~8.6	
生物化学的酸素要求量 (BOD)	160	20	5.6	18
浮遊物質 (SS)	200	20	7.6	19
n-ヘキサン抽出物質 (鉍物油)	5.0	3.0	1.8	3.0
六価クロム	0.5	0.2	0.05	0.44
全クロム	2.0	0.5	0.08	1.67
亜鉛	5.0	2.0	1.93	4.9
ニッケル	2.0	1.0	0.54	1.91
銅	3.0	1.0	0.02	0.98
溶解性鉄	10.0	2.0	0.14	1.52

## 排水濃度状況

めっき排水濃度の不均一と排水処理のバラツキにより一部社内基準を超えた濃度になっています。排水処理システムの改善を進めています。社内基準以下の濃度を遵守することができませんでした。  
より精度の高い排水処理方法に改善を進めてまいります。



化学物質管理(PRTR)

番号	物質番号	原材料、資材等名称	2007年年間取扱量					2006年	
			年間購入量	製造品搬出量	最大潜在排出量	水系排出量	廃棄物移動量	年間購入量	
			Kg/年	Kg/年	Kg/年	Kg/年	Kg/年	Kg/年	
1	1	垂鉛化合物(垂鉛として)	32,934	26,431		1,145	5,358		46,819
2	68	三価クロム化合物(クロムとして)	2,501	722		171	1,608		3,984
3	100	コバルト(コバルトとして)	1,400	404		96	900		1,495
4	132	フロン141b	9,450	4,725			4,725	4,725	14,450
5	145	ジクロロメタン(塩化メチレン)	31,800	15,900			15,900	15,900	45,000
6	232	ニッケル化合物(ニッケルとして)	7,321	6,664		121	536		8,106
		計	85,406	54,846		1,533	29,027	20,625	119,854



フロン141bと塩化メチレンの全廃に向けて取組みを行ってきましたが、全廃にはいたりませんでした。最終目標年である2008年に廃止に向け施策を講じてまいります。

# 会社概要

## (1) 事業者名及び代表者名

事業者名 日東精工株式会社  
代表者名 取締役社長 塩田 展康

## (2) 所在地（本社工場）

〒623 - 0054  
京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 番地  
TEL 0773 - 42 - 3111（代表）  
URL:<http://www.nittoseiko.co.jp/>  
他に（八田工場）（制御システム工場）（城山工場）

## (3) 事業内容

- ・工業用ファスナー（ねじ類）の製造、販売
- ・各種自動組立機の製造、販売
- ・各種流量計の製造、販売

## (4) 事業の規模（平成19年12月31日現在）

- ・資本金 3,522百万円
- ・売上高 37,665百万円（連結）
- ・従業員数 752名
- ・敷地面積 189,460 m<sup>2</sup>
- ・延床面積 70,402 m<sup>2</sup>

## (5) 環境管理関係の責任者及び担当連絡先

責任者 常務取締役	高倉 正明
〃 生産技術部長	芦田 敏明
担当者 生産技術部環境整備課	西田 好郎

連絡先 TEL 0773 - 42 - 8915

FAX 0773 - 43 - 2227

e-mail:kankyo@nittoseiko.com

発行所：全社環境事務局

生産技術部環境整備課



## アンケート

ご意見・ご感想をお寄せください

お手数ですがこの報告書についてアンケートに回答いただければ幸いに存じます。  
メールまたはFAXにてお寄せください。今後の活動と報告に活用させていただきます。

1. この報告書の表現はいかがですか。該当番号を○でお囲みください。

- 1 わかりにくい
- 2 普通
- 3 よくわかる

2. この報告書の内容はいかがですか。該当番号を○でお囲みください。

- 1 不十分
- 2 普通
- 3 十分

3. 日東精工の環境活動についてどう感じられましたか。該当番号を○でお囲みください。

- 1 活動が不十分
- 2 まずまず活動している
- 3 積極的に行っている

4. その他ご意見をお寄せください。

ご回答ありがとうございました。

下記に連絡をお願い致します  
日東精工株式会社  
環境整備課  
e-mail : kankyo @nittoseiko . com  
FAX : 0773 - 43 - 2227